

追い風を生かし、新時代ひらくリーダーを育てる



今年のキーワードは「品質保証」

東京建築カレッジ 学校長 小林 謙二
工学博士 関東学院大学名誉教授

東京建築カレッジの学校長、小林です。皆様、2017年西の年、明けましておめでとうございます。さて、年の初めに当たって、ひとこと申し上げたいと思います。東京建築カレッジでの本年の私のキーワードは、「品質保証」しかない、と思っています。かつて私の先輩教授が言ったことがあります。「いい成績を付ければ、そのような技術者になるものだ」と。Aをつければ、Aの資格ある人になるものだ、というわけです。これをまさにミッシヨンスクールの教員、という感じがしたものです。その気持ちに大いに共感したいところですが、それは一種の無責任に通じる危険性もあります。指導する側にも、受講者に自信を持ってAを付けられるように、大いなる努力が求められなければなりません。この努力は、個人的な範囲では収まらず、システムとして機能する必要があります。

第21期生による 実習棟上棟

1月20日(金)21日(土)
江東実習場にて

「伝統構法」の要素を大胆に取り入れた木造軸組み2階建ての上棟です。両日も午前10時～午後4時に、見学会を開催。参加ご希望の方は、事前にご連絡ください。

電話03-5950-1771
事務局・教務まで

たとえば、受講生の多様な知的要求に応えられる講義・実技および各種資格講習などの複線的つながりを持つカリキュラムの構成。更にこれらを効率的に行い、かつ将来の共働者となるべき仲間作りを可能とする余裕のある校地・校舎の確保。そして最終的には、教える側の成果である成績の客観的かつ責任の持てる評価。一見、大それた話のようですが、これらはいずれも現在の我々の視野内に入りつつあります。これから研修生をカレッジに送り出すと思うとおられる事業主の多くに期待していただけるものと思います。新年度からのカレッジに大いに期待ください。

第20期生による 卒業制作発表会

2月19日(日)
池袋校舎にて

正午受付開始、午後1時開会
裏面に「プレ発表会」報告



写真左は昨年の卒業制作「入母屋屋根」。大いに挑む意欲、協働作業の苦労が伝わる発表でした。



先生の実演指導に注目する第20期生たち

直角三角形の定理を使いサンガネで自在に複数の勾配、角度を割り出す規矩術の理解度が問われる課題です。

第20期生（2年生）は、「技能照査（実技 試験）」が1月14日・15日の2日

2年生の授業から

間実施されるため、課題である「棒隅木」（屋根の隅の構造体）の製作に全員が真剣に取り組んでいます。日曜日や夜間に登校し特訓を行なう研修生が複数います。

一方、「実習棟実習」は、1月20、21日の上棟日に向けて、各班の刻み作業は大詰めを迎えています。

7日、13日の両日は江東実習場でまる二日、追い込みの実技実習でした。ケガに気を付けて頑張れ！

1月6日（金曜）、東京建築カレッジの新年最初の授業が始まりました。第21期生（1年生）の午前の授業は「構造力学実験」です。「薄板の座屈」をテーマに体感型の授業を行いました（写真）。



1年生の授業から

12月24日（土）卒業制作プレ発表会

「遊具」班の社会との関係性を問いかける



2年生は卒業前に二つの関門をクリアしなければなりません。「技能照査試験（実技・学科）」と「卒業制作」です。卒業制作は、2年生の4月から始まる卒業制作ゼミで計画を練り、翌年2月の完成・発表に向けて、グループまたは個人で作業を進めてきました。

12月24日（土）、年内最後の授業日に「卒業制作プレ発表会」が行われました。①「空間」班、②「竹」班、③「御社」班、④「東屋」班、⑤「遊具」班、⑥「中門」班、⑦「犬小屋」班の順で、コンセプトワーク、設計や施工のポイント、現在の制作の状況、今後のスケジュールを各班が緊張しながら発表しました。

子どもたちのための無垢の木を使った遊具の制作に、贈呈先（学童保育所）の要望を丁寧に聞きつつ、安全性に最大留意しながら取り組んでいるグループもありました（＝上写真）。建築とは何か。より良い暮らしにどのように役立てることができるのか。その可能性の広がりを実感しながらの作業になることでしょう。

2月19日（日）午後には「卒業制作発表会」が公開で開かれます（池袋校舎）。観覧ご希望の方は会場整理の都合上、事前にご連絡ください。電話03-5950-1771、メールアドレス info@doken-college.ac.jp



制作意図を模型で説明（「空間」班）

東京建築カレッジでは、「実習棟実習」を通して、日本の気候風土と文化が育んだ伝統構法による「本物の家づくり」を体験できます。1年間のカリキュラムの中で、いちばんの見た目で、伝統構法を取り入れて手刻みで木造軸組の2階建ての家をつくり上げる実習棟実習は、

「伝統構法」の値打ちが体感できる

実習棟実習は、先輩

が建方・上棟した実習棟の解体実習を2日間をかけて実施した後、10月上旬開始。①図板書き、尺杖づくり、②墨付け、③刻み、④仮組み、⑤建方、上棟、という流れで、十数回の授業を行っていきます。日本が世界に誇る大工技術の奥深さを実

感しながら、クラスメイトと協働して、一つの家をつくりあげます。建方・上棟後には、自分たちで組み上げた建てた実習棟を対象に「構造実験」にも取り組みます。

「実習棟実習」は建築カレッジ教育の象徴とも言えるべき教育プログラムです。第21期生の入学以来の学習の蓄積、チームワークの到達点をぜひ、ご覧ください。

建築カレッジの「実習棟実習」とは？

いよいよ上棟（1月20日・21日）



第20期生（2年生）による実習棟。大黒柱を貫く梁の構造が良く分かる。

仲間と一緒にだから成長できる！

職業能力開発短期大学校 東京建築カレッジ
第22期生（来年4月入学）第4回募集

◇学校説明会 1月25日（水）

①午後2時から ②午後7時から @池袋校舎

◇応募締切 2月2日（木）

◇入学選考日 2月8日（水）

午前10時から午後3時（予定） @池袋校舎

授業見学は大歓迎！授業日は毎週金曜・土曜



今期最終募集！